

Library News

図書館だより No. 47
Nara National College of Technology

1999年7月 奈良工業高等専門学校図書館発行



(紫陽花-矢田寺にて-・本校名誉教授 石垣 昭先生スケッチ集より)

知の探求

図書館長 宮本 止戈雄

人間は約60兆もの細胞から形成されているという。一つ一つの細胞は遺伝子の持つ情報を基に細胞分裂により増殖して組織を作っていく。生命体としての機能は卓越し神秘に包まれている。人間や犬や鳥などの細胞どうしを比較する限り機能的にはさして大きな相異は無いように思われるが、細胞の集合である個体の比較では、進化の過程で生じた環境への適応の相異により、個性にかなり違いが生じている。犬は人間に較べて鋭い嗅覚と敏捷な運動能力を持っている。鳥は大空に羽ばたくことができ、魚は大海原での生活能力を持つ。数十億年の進化の歴史を経て人間は他の生物に比類のない思考能力を獲得できた。運動する、見る、聞く、考えるなど種々の能力は個々の細胞だけではどうすることもできないが、何億もの細胞が集合することにより初めて可能な能力となる。このように個々のものが組織化しネットワークを形成することにより各種の独特の機能を有するようになる。細胞の階層を人間社会の階層に置き換えても同じことが言える。家族が集まり家庭ができる。世帯が集まり村や都市、さらに国家という社会組織ができていく。私達はこの社会組織によって生まれる文化により快適な生活を送ることができ、大きな恩恵を受けている。

ところで、脳の中の思考能力の機能を司るネットワークは生まれた時からあらかじめ備わっているのではなく、思考により訓練されて徐々に形成される。いろいろな学習をしてそれについて思考を深めなければならないゆえである。人間の思考能力は森羅万象に対して「なぜそうなるのか」と知的な好奇心を生み、その理由を知ろうと知的探求心が生まれる。ゲーテは人生の探究家ファウストをして「いったいこの世界を奥の奥で統べているのは何か知りたい」と言っている。科学者はこのように自然を理解できる究極の法則を知りたいと願っているが、それを知ることが人間の能力で可能なかどうかはわからない。高度に発達した文明の中では、いろいろな事柄について個人の力ではどうにもならないが、組織的に行えば高い機能を発揮できることが多い。知的探求についてもしかりである。人類の知的探求は国家を超えて、世代を超えて行われている。人類の叡知を集積する図書館に足を運ぶことにより、人々がたどってきた知的探求の足跡を知ることができる。私達はその遺産を受け継ぎ知の探求を継承することにより、豊かな心を育て、科学と技術を発展させることを喜びとしたい。

目 次

巻頭言 「知の探求」	読書感想文コンクールについて …………… 11
図書館長 宮本止戈雄 …… 1	平成10年度 多読表彰について …………… 12
特別寄稿 「古都とのふれあい」	第12回 ブック・ハンティング …………… 13
事務部長 金窪 三郎 …… 2	平成11年度（1999年度）・図書館委員会 14
新任教官からのメッセージ …………… 3	図書館からのお知らせ …………… 14
卒業生からのメッセージ …………… 6	平成10年度図書館利用状況 …………… 15
心に残る一冊の本 …………… 9	

古都とのふれあい

事務部長 金 窪 三 郎

私の休日は、図書館通いか、車と足を使っての史跡巡りで1日を過ごすことが多い。もっとも図書館といっても、宿舎近くの図書館を多く利用する。史跡巡りは、あらかじめ、史跡周辺の歴史や文化、風土をできるだけ詳しく調べあげた上で、現地を訪れることにしている。下調べが十分なほど、現地での史跡との出会いを一段と楽しく興味深いものにしてくれるからだ。そのため休日には、できるだけ暇を見つけては、せっせと近くの図書館へ通うことになるのである。

私がこのような休日の過ごし方を本格的にはじめたのは、いわゆる“転勤族”になってからである。もう10年余りになる。転勤は、全国規模で、ほぼ3、4年毎におとずれるが、その度にその地方の図書館との付き合いがはじまるのである。市役所で住民登録を済ませると、早速、図書館で一市民としての「図書館利用証」の交付を受けるのである。郷土誌といった類いの本は、買い求めるよりは地域の図書館を利用するほうが一番よいと思っている。幸いにして赴任地では、殆どが近くに市立図書館や県立図書館があり、大いに利用させてもらった。また、勤務先の大学図書館もよく利用した。よく人から、「史跡巡りが趣味ですか」と聞かれることがある。私はそんな時「はいそうです。」と答えることにしている。だが正確にいうと、趣味と実益とを兼ねていると私は思っている。それは仕事の上で、とても有益だと思っているからだ。職場は、ほぼその地域の人たちで構成されているので、その地方の歴史、文化を知ること、職場の人間関係、信頼関係をつくる上で、極めて重要だからである。普段の職場での付き合いも何の抵抗もなく入っていけるし、よく地方で行われているいろいろなお祭り行事など、共通の話題として話が弾むことにもなる。ときに私に

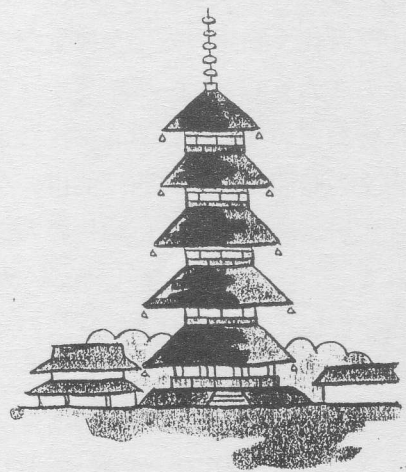
とって思いがけない発見につながることもある。

奈良高専に着任したのは、昨年の1月、正月早々の転任命令であった。古都「奈良」は、私にとって憧れの都市でもある。“あおによし奈良の都は咲く花のにおうが如く今さかりなり”と歌に詠まれたとおり、飛鳥、奈良時代には、日本の政治、文化の中核地として華やかに栄えたところである。私の奈良での史跡巡りは、先ず飛鳥・橿原周辺から始めることにした。わが国最初の仏教文化の開花、律令体制の確立など、歴史の中心舞台となったところである。引越し荷物の整理もそこそこに、宿舎からさほど遠くない、奈良市立中央図書館を利用することにした。周辺の地理、歴史資料を入念に調べ上げ、私なりに理解し、ようやく現地へ出向くことにした。

今年の5月に入った雨上りの休日、私は藤原京跡を訪ねるため、車を奈良から国道169号線を南へ走らせた。桜井市を経て「藤原京跡」に着く。藤原京は、694年から持統、文武、元明の3代天皇にわたり平城遷都までの16年間、この地に都が置かれていたところである。大極殿があったとされる場所に

立ち遠く目を向けると、ほぼ真北に耳成山、南西に畝傍山、南東に天香久山が望め、いわゆる“大和三山”に囲まれたほ

ぼ中央部に当たることがよくわかる。素晴らしい眺めである。時折スーッと通り抜ける春の心地よ



い風は、時の流れを忘れさせてくれる。「春すぎて 夏来にけらし 白妙の 衣ほすてふ天之天香久山」と詠んだ女帝、持統天皇の人となりを想像するに十分な静かな空間が保たれている。私が想像していた以上に、一帯は広々とした田畑が広がりを見せ、おそらく、この地に住む人たちがここに都があったことを誇りとし、守り続けようとする思いが、田園の住宅化、ビル化を拒み続けてき

たのだろうか。古代「飛鳥」とのふれあいを求めて、私は当分はこの飛鳥・橿原の地に足を運び続けることになるだろう。奈良高専は、大和郡山にあり、付近には斑鳩、法隆寺がある。大和郡山の歴史も調べてみたい。そのうちに、奈良高専の図書館も大いに利用することにしたい。公開講座も開設されている。これからが楽しみである。

新任教官からのメッセージ

「うらやましい」

一般教科 鍵本有理

私は今、皆さんに嫉妬しています。

学生時代にはいろいろな経験をします。友達、部活動、勉強、もちろん恋愛、そして将来のことと、考えることはたくさんあると思います。一言でいえば皆さんはまだ「決まっていない」人間です。これから未知の世界が広がっているわけです。

一方、私は皆さんがこれから経験するであろうことは一通り済ませてしまい、ある程度「決まってしまった」人間です。そこにはまた一抹のさびしさもあります。遊園地のジェットコースターに乗り終わったというところでしょうか。

本も一応は「いつでも読める」わけですが、まだ「決まっていない」時の読書は貴重です。

中学時代、国語の先生が何気なく話してくれた『やちまた』（足立巻一著）という本によって、私は言葉というものに関心を持ちました。皆さんが古文の時間に習う「四段活用」などという名称は、本居春庭という江戸時代の人によって名付けられました。名字から察しがつくかと思いますが、『古事記伝』を書いた本居宣長の息子です。三十歳になる頃に失明しましたが、その後も勉強を続け、日本語の動詞の活用の法則を明らかにしたのです。その春庭のことが書いてあります。

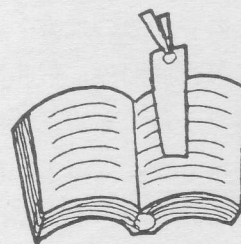
その本を読んだ後、法学部志望だったはずが、なぜか国文科志望になり、今の私があります。

それほどの影響はなくとも、本は何らかの形で心に残っていきます。いわば「心の貯金」です。大人になったら、すぐに役立つもの・必要なものを読むことで手一杯になります。それはまた、使うために読んでいるのであり、入った分、出ていきます。でも今はまだ、「一見無駄なもの」を自由に読むことができます。学生時代の「貯金」に助けられることも多いのです。

漫画も結構。図書館に『はだしのゲン』があるのには感動しました。また手塚治虫のものもあります。もう亡くなった方ですが、高専の学生は『鉄腕アトム』の作者だといえば、知っている人も多いでしょう。

また、少し読んでみて、合わない、難しすぎる、と感じた本は無理して読まなくてもよいと思います。ただ、いつか「読むべき時」が来ます。そのときに手元にあるように、安い文庫本で構いませんから「つん読（積んどく）」のも必要でしょう。

最後に、最近実感するのは、本を一番たくさん読めるのは学生時代だ、ということです。やはり時間がありません。その点でも皆さんがうらやましい。



読書について伝えたいこと

電子制御工学科 矢野 順彦

今では主に専門の本しか読まなくなった私にとって、「学生へのメッセージ」というのは難しいものです。私の研究室の本棚を眺めてみても、約9割は電気とC言語と制御の本で占められています。決して好ましい環境とはいえないと思っています。

それでも学生の頃は、興味を持った本をいろいろと読んでいたことがあります。早く寝ないと明日の授業が辛くなるとわかっているのに、その先を読みたい誘惑に駆られてつい朝まで読んでいたことを懐かしく憶えています。専門書については、実験レポートや卒業論文の提出直前に必要な箇所を拾い読みするくらいでした。

近頃は、朝まで読みたいと思わせるような本に出会っていません。というのは、やはり当時と比べて嗜好が違ってきているからだといえます。今でもそんな本を読みたいとは思っているのですが、さて何から読めばその世界の虜にさせてくれるのか、最初の一冊が肝心と思うと不安で未だに手をつけられずにいるというわけです。

以上が私の持つ読書への想いなのです。ただ1つだけ学生の皆さんに伝えたいことがあります。

それは、高専の5年間で「これだけをしたい」と決めつけてしまうのは、勿体ないということです。せめて卒業するくらいまでは、専門の知識だけでなく、それとは全然関係ない知識も少しくらい知っていてほしいと思います。自分自身の中に持った些細な疑問（実験レポートの課題だけに限らず）に対しても、本を読むことで知識を広げてほしいとも思います。だからこそ、いろんな分野の本に接してください。ときには自分の考え方を変えてもいいと思います。もしそんな本に出会えて共感が持てれば、それも立派な財産になります。

時間は誰にでも平等に与えられます。その限られた時間をどのように過ごすかは各個人に任せられます。読書は最も身近で確実に知識を広げることができる方法だと思います。狭い世界にこだわらずに、ぜひ外にも目を向けてほしいと思います。

私自身も外に目を向けたいと思います。

「原作”付き”小説について」

情報工学科 小山 雅史

はじめまして、この4月に情報工学科に赴任して参りました小山と申します。

専門分野と絡めたテーマにしようかとも思いましたが、話が堅くなりそうなのでやめまして、今回は最近私が危惧している「原作”付き”小説」について話させていただきます。

まず、「原作”付き”小説」とは何か。「原作小説」ならば、ご存知、映画やドラマ等のシナリオの基になった小説のことですよね。これに対して、「原作”付き”小説」は、私が勝手に呼んでいるのですが、出版会社が推し進めるメディアミックス路線において、漫画・アニメ・ゲームが原作で、それをノベライズ（小説化、これも造語でしょう）したもののことを指します。

映画を見た後に原作小説を読んで、そちらの方が面白かった、あるいは原作小説のファンが映画を見てがっかりした、といった話はよく聞く話で、小説には小説でしか表現しきれない魅力があるということではないでしょうか。（特にゲーム界では、原作付きに当たりなしという定説があるくらいです（笑）。）

そして、私がこのような「原作”付き”小説」を危惧する理由は、単純明快で読んで面白くなかったからです。映画の場合では、面白さは原作小説には及ばないものの、映画ならではの手法を駆使して、別の面白さを見せてくれたりします。しかし、残念ながら私が読んだ作品たちは、小説ならではの魅力に乏しい、ただのシナリオ集かと思しき物ばかりでした。

だが、メディアミックス商法の中、このような作品でも、そこそこの部数が掃けてしまう。そして、ご時世なのか、創作系でなかなか面白い小説を書いていた作家までもが、原作付き小説に手を染めるようになっていきます。（これがまた、何故か原作付きを書く面白くないのです。）

このような小説が氾濫することで、小説のレベルが下がり、結果として読者から見離されること

(文字離れ)を危惧する次第です。

でも、現実にはこのような作品が氾濫する中で、真に面白い作品に出会うために、私が提案するのは口コミの利用です。友人に薦められた小説ならば、取りつき易いですし、同じ作品のファン同士でのコミュニケーションも広がります。そしてそれが、鼯眞の作品・作家の作品を残すことに繋がるわけですので、皆さん、好きな作品を積極的に人にも薦めましょうということです。

そして、「原作」付き”小説”で面白いのを知っている方は、ぜひ私に教えてください(笑)。

「本とのつきあい方」

物質化学工学科 宇田 亮子

図書館や本屋に足を運ぶと、様々なカテゴリーの本に出会う。小説、専門書、百科辞典、一般図書、絵本、雑誌(趣味のものも学術的なものも含め)、漫画、画集…。どんなに本が嫌いな人でも、そのうちのどれかには手を伸ばすのではないだろうか。

このご時世、情報化社会である。情報をジャンジャカ収集し、自分の必要なものだけを取って、そしてジャンジャカ捨てていかなければならない。それも能力のうちの一つである。

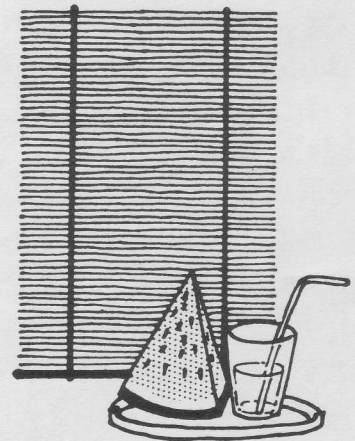
電車の中の広告に目を通して、「巷では何がホット？」などをピックアップする。朝、新聞の見出しにだけ目を通してから学校に向かう。専門雑誌でも、関係する論文のみを検索するという便利な方法もあるが、科学雑誌のいくつかなどは、科学の中で顕著な成果のみを多岐の分野にわたって載せてあるので、一通り(パラパラでも)読んでみないといけない。そして、関心のあるところを深く掘り下げる。または、広い範囲を眺めることで興味の範囲が広がることもあれば、アイデアをもらうこともある。

活字に接する時間、費やすお金、得た知識などはいつも常に同じ関係にはない。分厚い専門書を高い金を出して買ったのに、役立たずに終わることもあれば、知りたい分野の内容がインターネッ

トですぐに検索できたり。一コマの新聞記事が強く心を打つこともあれば、どんなに「感動的」と薦められてもなんとも感じない小説もある。あまり時間やコストをかけずに多くを得る、というのが理想的であるが、なかなかそうはいかない。また、効率的・合理的がすべてかというところ、一概にそうとも言い切れない。

情報源はたくさんある。本を読む方法も、自分にあつたものを見つけなければならない。机に向かって姿勢を直し、集中して読むばかりが読書ではない。短い時間の中でよむのに適しているものもあるし、もちろんまとまった時間が必要なものもある。何かをしながらダラダラ読みたい気分の時もある。本を片手にカフェで過ごす時間はおしゃれだと思う。知人は、数分で読める長さのもの(たぶん雑誌の切り抜きかなにか?)をトイレに常設している。そこまでやれば、おみごと!である。

それは行き過ぎとしても、とかく選択肢の多い世の中に私たちは生きている。じぶんらしく、を実現するためにも、本とのつきあい方も工夫が必要かと思われる。じぶんに合ったスタイルを見つけられないといけない。とりあえず、自分が落ち着く、もしくはゆとりを感じる、または有意義な時間を過ごした、と感じられるような本と時間を創ってみよう。



卒業生からのメッセージ

5年間の図書館生活

機械工学科 久保善紀
(豊橋技術科学大学)

僕は、高専生活5年間のかなりの時間を図書館の中で過ごしてきました。だから最後に図書館だよりも何か書かせてもらえることになり、非常にうれしいのですが、書きたいことがたくさんあり何から書けばよいか迷っています。

まず僕は元々本好きだったのですが、高専に入るまではあまり中学校や市の図書館などを利用したことはありませんでした。それは、貸し出しの手続きが面倒だったのと、中で誰も一言もしゃべらず、黙々と本を読んでいたりと、勉強をしていたりしてあまり静かすぎる館内が逆におちつかなかったからです。しかし高専の図書館は僕にとって、とても居心地のいい場所でした。貸し出しの手続きは簡単だし、何より他の図書館のように静かすぎない、適度にうるさく明るい雰囲気を気に入っていました。僕は一人で勉強していると心細くなるので、テスト前になると友達や先輩と図書館で勉強していましたが、分からない事もその場で参考書で調べるなり誰かにきくなりできるし、家より集中できて勉強がはかどりました。勉強だけではなくヒマつぶしや昼寝のためにもよく図書館を訪れました。こんな事を書くとそれは図書館の本来の利用法じゃないと怒られそうですが、一応ちゃんと本もたくさん読みました。僕は「タダ」という言葉が好きなのでタダで本が読めるとすごく得をした気分になりました。読む本は何でも読むのですが特に歴史小説とかミステリーとか推理小説とかが好きで、雑誌なら音楽とか映画とか科学雑誌を読んでいました。あとマンガももちろん。僕は基本的にどんな本でも読んでみればおもしろいところは必ずあると思っています。飛ばし読みでいいからページをめくってみて興味をもったと

ころから読めばよく、はじめからよむ必要さえないと思っています。本を読むのが嫌いだったり、苦手だという人はたいてい最初から一行一行読んで理解しようとして飽きてやめたり、理解できないところ、おもしろくないところでストップしたりすることが多いと思うのですが、僕はつまらないところは飛ばしたり最後まで読まなくてもよくて一個所でもおもしろいところが見つければ読んだ意味があるし、あとで何か役にたつこともあると思います。

最後に、僕は思い切り図書館を利用しまくったと思っていますが、ビデオとかLDとかはあまり観なかった(まとまった時間がとれなかった)のが唯一心残りです。観たかった映画もたくさんあったのですが。僕がこれから進学する大学の図書館も居心地のいい場所であればいいなと期待しています。

某教官ふざけて曰く「一般開放したら、…。」

私の図書館利用法

電気工学科 中井秀郎
(奈良高専 電子情報専攻)

私が通っていた中学校でも図書室があったのですが、蔵書も少なく部屋自体も狭く、奈良高専では流石に図書館と呼ぶにふさわしいスペースがあり、色々なジャンルの書籍を豊富に取りそろえられているのに感動しました。

そして何よりも視聴覚設備が整っていて、本の検索用のパソコンまで置いて希望する書籍を検索し易くしている等ありがたいことです。

自宅近くの奈良市立図書館と比べると総合評価で劣るがそれでも、これだけの設備を備えてあるという事は大変素晴らしいことです。

現在では、検索用のパソコンが新しくなり、インターネットやCD-ROMを利用できるパソコ

ンが設置され、連日インターネットを利用する学生が増えて図書館もにぎやかになりました。CD-ROMを最初に利用したのは私であると自負しており、それは日本地図のソフトでした。

私が1年のときは、図書委員であるにもかかわらず、あまり図書館を利用しなかったが、2年の夏休みから図書館がオープンしている時は、ほぼ毎日利用しました。自宅ではついつい遊んでしまうのと、図書館ではクーラーがきいていて快適な環境で宿題ができるからです。それに、行き詰まったときは先生に教えを受けるといった利点があります。夏休みでも先生が学校に居られるので、私の場合は主に数学を聞きに行ったものでした。

4年、5年のときには、宿題の他にも電験3種の受験勉強をやっていて、宿題より電験3種のほうに重点を置いていました。気分転換のために小説等の本を読むのだが、気付いたら閉館時間だった事もよくありました。

本だけでなくインターネットを試みたが、これも気付いたら閉館時間だった事もよくありました。もちろん、図書館は夏休み以外にも普通の日も利用しており、自宅近くの図書館よりも、専門書の数と種類が豊富なので実験のレポートの考察についてのヒントを得るために、専門書を借り参考にしました。宿題やレポートなんかは図書館を利用した方が効率的だと私は考えています。今では、インターネットが利用できるのも、それで探してみるのも効率的な手段のひとつだと思います。

最後に図書館では、騒がず静かに利用し、いつまでも快適な空間であってほしいと思います。

私の高専図書館

電子制御工学科 林 久里子
(メイテック)

わたしが5年間の高専生活でよくいった場所のひとつが図書館です。1、2年生のころは教室から図書館までが近かったこともあって、自習時間などですることがないと、友達と二人でよくビデオを見にいったりしました。初めていったとき、

その作品の新しさにびっくりしました。どうせ、文部省が推薦しているようなものか、古いのしかないだろうと思っていたら、ちゃんと、私たちがみたいと思うようなものもあって、うれしかったのをおぼえています。

3年生になると、教室が遠くなったこともあり、図書館に行くといえばレポートのためとなっていました。いってみると、どうしても、専門書のおいてある右側から、普通の本のおいてある左側へふらふらと行って、本を読んで、過ごしたりしていました。普段は、あまり自分がすすんで買わないような本も、図書館にあると、せっかくだから読んでみようという気になって読んでいました。

夏の暑い季節、部活に行く前に図書館に涼みにいってそのまま、ボーッとしていると、部活が終わってしまっていたことも何度かあります。うるさくして怒られたこともありますが、5年間有意義に利用したと今になって思います。

図書館は、行くまではめんどくさいかもしれませんが、いろいろな利用法があって便利で楽しいところです。せっかくな学校にある施設なので、どんどん利用して、怒られないよう楽しんでください。

図書館ありがとう

情報工学科 渡部 愛
(リコーテクノネット)

授業で当たった問題の解答探し、実験の考察探し。これが、図書館にいった第一の理由です。高専の図書館には、一般図書だけでなく専門書がいっぱいありますよね。そういった専門書の中から、似たような問題を探し出して書き写す。または、その本を借りていく。こういったことをよくしましたね。結局、解答がなかったりもするんですが、それでも関連図書は借りていくっていうことはよくしましたね。

一人あたり四冊も借りられるということもあり、借りられるだけ借りたこともありました。でも、結局使ったのは一冊とか・・・。

そして、いつのまにか貸出期限が過ぎてたりして。毎回とっていいほど図書の延滞者リストに載っていたりして・・・。

普通、これだけ延滞していたら貸し出し拒否とかペナルティーを出されるのに、高専では一回もなかったですね。だからといって、延滞してもいいって訳じゃないですよ。そのおかげで、図書館へ行く回数が増えましたね。なるべく、借りずにその場で読んでしまおうとか思って。

それに、“友達と会話してても怒られない！”(大声じゃない限り) っていうところが、高専の図書館のいいところの一つですね。本を借りなくても、話に行くっていうことが結構ありました。そのついでに、めばしい本を見つけたりとか。

こんな常に本を借りやすい状態である図書館を、もっと利用しておくんだと今更ながら思います。一般の人に開放してるけれど、期間内に返しに行く自信がないし・・・。だから、みなさん“いっぱいいっぱい”図書館、利用してください!!

最後に、こんな私に、いつも快く貸しだししてくれた図書館の方々にお礼申し上げます。

奈良高専図書館

化学工学科 ユーリオノ
(東北大学)

奈良高専に三年生に編入して、今年卒業したインドネシア出身のユーリオノです。東北大学工学部に編入学して、今3年生です。小さい時から、本を読むことが好きで、とくに子供の頃、Enid Blyton という作家がとても好きでした。大人になったら、Agatha Christie、Sydney Sheldon、John Grisham、などの小説をよく読んでいました。全部母国語のインドネシア語で読んでいました。国に入った日本の漫画も好きでした。フィクションだけでなく、positive thinkingの本などを読んでいます。

三年間の奈良高専の中で、よく図書館を利用させていただきました。奈良高専の図書館は僕にとっていつも楽しい場所になっていました。専門

の雑誌から音楽や映画の雑誌まで、最新のものがたくさん並んでいます。雑誌・新聞のコーナーはとてもよかったです。もうひとつ、僕にとって楽しいコーナーはレーザーディスクコーナーです。映画が好きですので、よく見に行きました。古い有名な映画もありますし、最新のものもあります。また、最近ワイドテレビまで置かれて、映画をより楽しめました。日本語の本はあまりよく読めないの、最新の面白い小説などの書籍のcollectionを楽しめませんでした。専門の本や雑誌を、実験や研究によく利用しました。コンピュータも入って、本の検索やインターネットに利用できて非常に便利です。

次に、僕のいった学校の図書館について述べ、比べてみたいと思います。今の大学の図書館は、さすがに大学って高専に比べたら、規模がより大きいので、図書館もより大きく、何館も(分館)あります。本の数も多いです。高専の図書館と同じようにインターネットコーナーもあります。ただ、悲しいことに、楽しい映画コーナーはありません。高専の図書館よりいいところのひとつは静かであることです。従って、勉強場所として最適です。高専の図書館はよくうるさくなって勉強できませんでした。

国にいるとき、大学にちょっと通っていました。国立大学であまりお金が出ないから、図書館の設備はそんなにきれいではありませんでした。しかし、僕が出たとき、新しい七階建ての図書館の建物が建てられて、コンピュータ設備も入るようになりました。前は手でカードを調べて検索しなければなりませんでした。

三つの学校の図書館の中で、奈良高専の図書館が一番好きです。他の図書館は、必要な時間、つまりレポートなど書くときだけ行きます。奈良高専の図書館は小さいですが、楽しみができる場所でもありますので、暇なとき、勉強で疲れたときも利用していました。



心に残る一冊の本

— 〈あなたにも薦めたい〉(その9) —

『かたち誕生』

杉浦康平著 (NHK出版)

電気工学科 土井 滋 貴

バブルの後遺症が今ほどひどくなる前は、感性などといった言葉が次世代のキーワードとしてその実力以上に注目されていました(例えば、長町三生、「感性工学」、海文堂など)。今ではマルチメディアと名を変えてその流れは継承されている気がします。私もそんな企てに加担している一員でしょう。

感性などという怪しいカテゴリに眉をひそめる人たちの言い分の1つとして、その大系が全くつかめないということがあるのではないのでしょうか。その点で一つの指針を提供してくれるものが今回紹介する杉浦康平「かたち誕生」(97年)です。

杉浦康平はグラフィックデザイナーであり神戸芸術工科大学の先生です。95年の著書に神戸芸工大のテキストとしても使われた「円相の芸術工学」(工作社、95年)があります。この本も大変おもしろい構成になっていて、それ以来すっかりファンになってしまいました。最近では「色っぽい人々」(松岡正剛 淡交社 98年)にも名を連ねています。

本書は96年のNHK人間大学で放映された「かたち誕生」のテキストを加筆したもので、「かたち」という視点でさまざまな現象を図として表現する、落とし込む、固定化する、といった事例、手順を紹介しています。

ものがものだけに実際見ていただかないと内容が伝えにくいのですが、いくつかトピックを紹介しましょう。工学を志すものにとって「こういうことをしてくれる仕組み」といったイメージを具体化する作業において、まだ製図や回路図に落とせないほんやりとした構想をイラストや模式図で表現してディスプレイすることは大切です。197頁からの「人生の地図」や217頁にある「味覚地図」などはその例として「こんなふうを描けるんだ」と感動さえ覚えます。また古代中国の漢字の話や曼陀羅など工学と同時に語られることがないような内容でもただの逸話に終わることなく消化して伝えられます。

毎年更新される本館1階廊下の高専ギャラリーにはなかなか感心させられます。広い意味で絵を描く勉強が大切だと思う今日この頃です。

『心に残る一冊・・・あるクラスでは』

電子制御工学科 飯田 賢 一

心に残る一冊は? 誰かに薦めたい一冊は? と問いかけても、私はこれといって本を読まないんでお薦めできる本は悩んでしまいます。無理して理工書を挙げては仕方ないので、代わりとしてはなんですが、あるクラスにて心に残る一冊は? と問いかけてのお薦め本を挙げておきます。心に残るかどうかは人それぞれですが、同じ年代の人が読んでいいと感じる本ですから、読んでみたいと感じた人は図書館などを利用し是非読んでみてください。私も読んでみたいと思います。

『作品名』 (著者) (×人数) ・コメント

『五体不満足』(乙武 洋匡)(×4)

・両手、両足が生まれつきない男の人の自分の記録。図書館にあり。

- ・生まれた時から手足のなかった作者が自分の経験を通じて、体の障害は不便だけど、不幸な事ではないという事を説いている。

『本当は恐ろしいグリム童話』(桐生 操) (×2)

- ・「小さな子供でも知っているような話を恐ろしく、そして面白く書いている」ところが心に残った。
- ・子供の頃に聞いたグリム童話とは、全然違った本に思えるほど内容が違うかった。

『アルジャーノンに花束を』(ダニエル・キイス) (×2)

- ・知恵遅れの30才ぐらいの人が手術して、だんだん頭がよくなっていく時の人格形成の過程やら、頭がよくなってから初めて自分の周りの状況が分かって、絶望したり、また、頭が悪くなっていつ今自分がいなくなる事の恐れやら。
- ・知恵遅れで、頭がよくなる事を夢見る青年が、ある手術を受けて、どんどん知恵遅れが直って行って、普通の人よりかしくなっていく。しかし、そうなってくると、今まで分からなかった大人の汚さや、世の中の汚さに気付いて嫌になっていきます。そして、最後には元に戻っていくという話です。

『ソフィーの世界』(ヨースタイン・ゴルデル) (×2)

- ・ある日ソフィーに「あなたは誰？」という哲学者からの手紙が届く。その日から見覚えのない物が自分の部屋に落ちついたり、知らない人あての人の手紙が届く・・・
- ・この本は主人公の所へ、哲学的な手紙が送られて来る。送り主はわからず、主人公はその手紙を読んでいろいろな考え方や思いを深めていくという本です。

ちなみに、これら以外の推薦本と短評は、

<http://www.ctrl.nara-k.ac.jp/~iida/book/book.html> に書いてありますので、覗いて見て下さい。

「青年と人生を語ろう」

アンドレ・モーロワ (二見書房)

物質化学工学科 井口 高行

“一冊の本”の主旨はここで挙げた図書を皆さんに読んでもらいたいということだろうと思います。それには今も続けて発行されてなければなりません、調べた範囲では確認出来ませんでした。それでも私にとっての“一冊の本”はこれをおいて他には在りません。

古い話になりますが、高校生のころの私はあまり丈夫ではなかったこともあって、外で活動するより本を読むことの多い毎日でした。夏休みなどは一日一冊読めましたので、ひと夏に30冊くらい読んだと思います。学校の図書館を利用すればよかったです、近くの貸本屋のお世話になりました。当時世間全体がまだ貧しく、本は買うより貸本で済ます時代でした。当時の貸本屋に並んでいた本は、今考えると貸本需要のある大衆小説中心だったようで、私の読んだ記憶に残っている小説も吉川英治「鳴門秘帖」、「宮本武蔵」、山岡荘八「織田信長」、長編の「徳川家康」……時代小説中心でした。

そんなある日書店で表題の本に出会ったときは驚きでした。哲学者とも思われる思慮深い書きぶりで、読書については生涯師事してゆけるような巨匠をそれも少数選んで、その巨匠の作品を再読三読することを勧めていました。ほとんど大衆小説以外には目を向けなかった私には、読書は単なる娯楽だけではいけないのだと教えられた気がしました。これがきっかけで、バルザックの「谷間の百合」を最初に読みました。モーロワがフランス人でフランスの作品を多く引用していた記憶が残っています。

平成11年度 読書感想文コンクールについて

本年度の読書感想文コンクールを、例年通り図書館委員会と国語科との共催で行います。先生方からは以下の28冊が参考図書として推薦されました。この他にも興味のある本・「読書案内100選」などから自由を選んでかまいません。3年生以上は自由参加ですが、積極的に多数の応募があることを期待します。

文学作品

伊豆の踊り子	(川端康成)	新潮文庫
沈黙	(村上春樹)	全国学校図書館協議会
影をなくした男	(シャミッソー)	岩波文庫
人間失格	(太宰治)	集英社文庫、岩波文庫
車輪の下	(ヘッセ)	集英社文庫、旺文社文庫
乱菊物語	(谷崎潤一郎)	中公文庫
山椒魚戦争	(カレル・チャペック)	ハヤカワ文庫
不思議な少年	(マーク・トウェイン)	岩波文庫
楢山節考	(深沢七郎)	新潮文庫
呐喊(とっかん)	(魯迅)	中公新書
友情	(武者小路実篤)	新潮文庫他
流れる星は生きている	(藤原てい)	中公文庫
若き数学者のアメリカ	(藤原正彦)	新潮社

文学作品以外

弱兵インド洋作戦	(前田酉一)	関事務所
もの食う人びと	(辺見庸)	角川文庫
ハル・ライシャワー	(上坂冬子)	講談社文庫
日本語練習帳	(大野晋)	岩波新書
五体不満足	(乙武洋匡)	講談社
さらば悲しみの性	(河野美代子)	高文研
宇宙からの帰還	(立花隆)	中公文庫
かたち誕生	(杉浦康平)	NHK出版
青春対話 21世紀の主役に語る	(池田大作)	聖教新聞社
目玉かかしの秘密	(安田安幸)	筑摩書房

人権問題関係

エイズと生きる時代	(池田恵理子)	岩波新書
自由をわれらに	(ウォルター・デーン・マイヤーズ)	小峰書店
沖縄一戦争と平和一	(大田昌秀)	朝日文庫
りゅうりえんれんの物語	(茨木のり子)	全国学校図書館協議会
橋のない川 第一部・第二部	(住井すゑ)	新潮文庫

平成10年度 多読表彰について

より多くの人に、より多くの本を読んでほしいと、前館長が設けられた多読表彰も3回目をむかえました。本年度最初の全校集会で紹介され、校長先生から表彰を受けたクラスを表に示します。第一回のトップクラスは28.1冊、平均は13.3冊でしたが、2回目はそれぞれ38.6冊・16.2冊と伸び、今回も期待してはいましたが、クラスの違いはあるものの数値は全く変わりませんでした。もう頭打ちなのか、辛うじて保っているのかは判りませんが、対象クラスの希望図書はすでに購入されており、時期が来れば全学生に開放いたします。

なお、図書貸し出し冊数は、全国高専で本校はトップクラスであることを申し添えておきます。より多く学生が図書館を利用し、より多くの本を読んでもらうことを期待して、第4回目もすでに始まっています。

第3回 多読表彰クラス

(数値は1人当たりに換算したもの)

順位	クラス	貸し出し数	賞品
1	専攻科化学工学専攻	38.6冊	3万円相当の図書
2	1年 機械工学科	32.0冊	3万円相当の図書
3	1年 情報工学科	28.1冊	2万円相当の図書
4	3年 化学工学科	25.3冊	1万円相当の図書
5	4年 化学工学科	21.8冊	1万円相当の図書



(受彰後の記念撮影)



第12回 ブック・ハンティング

”知ってるつもり!?” ブックハンティング

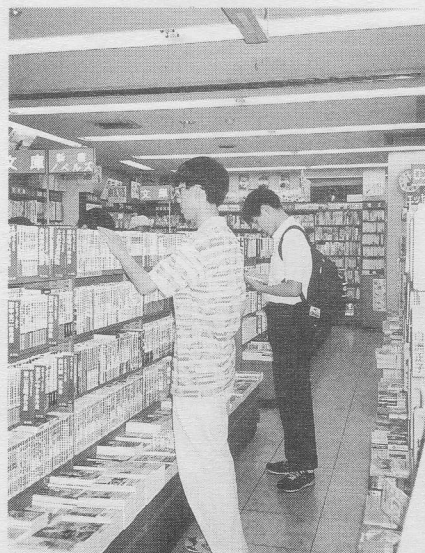
電子制御工学科4年 南崎嘉伸

突然ですが、「ブックハンティング」って知ってますか？ 1年生の人はあんまり知っている人は多くないと思いますし、2年生以上の人でも全然知らないという人も中にはいるかもしれません。ブックハンティングというのは図書委員やってる人には年に2回の大イベントみたいなもんです。毎年春秋ぐらいに駅前の啓林堂書店さんにおじゃまして予算内で自分達の好きな本（もちろん中にはダメな本もある）を直接図書館に入れる図書委員の特権みたいな大イベントです。

さて今回は、6月10日（木）のテスト直後に行いましたが参加してくれた図書委員の数が20人近くと例年になく多い参加人数で行われました。（今年は図書委員の連絡もきっちりしようとした効果がさそくでできたかも？）このブックハンティングではけっこう参加した図書委員の各々の“色”が濃く出てきちゃったりします。最近話題の本から専門書関係はもちろん、うちの学校独特の様な本までさまざまな種類の本が入ってきます。（ブックハンティング購入リストを見たらおもわず“おっ”と思うタイトルがあったりするので要チェック）

毎回、毎回、本当にいろんなジャンルの本をゲットしてきますが今回は、「〇〇マニュアル」関係の本が数タイトルあったり最近出てきた「××読本」関係の新作があったりしたりと、その時々の購入タイトルを見ると傾向が出ていたりするのを見るのも楽しいです。けど、どのときでも各図書委員が自分も含め多くの人に、自分のおすすめの本を見てもらえたらいいなあと思って入れた本ばかりなので、図書館に入った時にはぜひ手にとって読んで見て下さい。

自分もこのブックハンティングで本が入ったおかげで、今まで全然読んだ事のないジャンルの本を読むきっかけになったり、好きなジャンルの本でも見落としていたのを別の人が見つけて入れていたり、けっこう自分の幅が広がったり奥が深くなったりしています。うちの図書館は、まだまだ奥が深いです。これを読んで興味を持ってくれた人、まずはその足で図書館へLet's GO!



（ブックハンティング風景）

平成11年度 (1999年度) ・図書館委員会

本年度の図書館委員会と学生図書委員会のメンバーおよび役割分担が次のように決まりました。

図書館委員会			学生図書委員						
館長：宮本 部長：山内・加納・栗本 (事務部：杉本・福井・清水)			委員長：南崎 (4S) 副委員長：田村 (3S)						
図書部会	視聴覚部会	研究紀要部会	学年	M	E	S	I	C	
山内・福 加納・栗 武藤・井 中和田	加納・福 山内・栗 武藤・井 中和田	栗本・中 加納・山 武藤・井	1 2 3 4 5	木 山 森 小坂 植	下 野井 島 田 川	谷 村 本 島 植 田 土 屋	松 村 増 村 南 本 多	井 元 田 轡 岡 本 出 水	川 山 山田・遠 新 谷 畑 口 山 谷 橋

図書館委員担当曜日					学生図書委員学年代表				
月	火	水	木	金	1年	2年	3年	4年	5年
井口	栗本	福 山	加 納	武 藤	松 村	山 野	井 村	田 南	崎 出 水

お知らせ

夏季休業中 (7月17日～9月19日) の開館時間等は次のようになります。

★開館時間 *平日 8時30分～17時

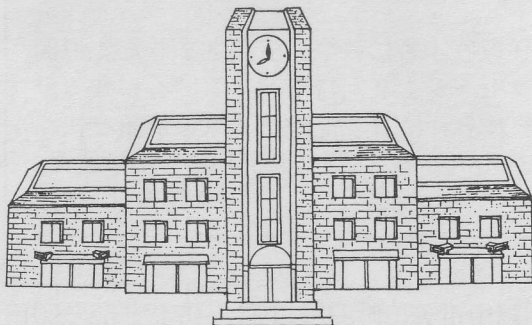
*土・日曜日 休館

★閉館日 8月11日 (水)～8月27日 (金) 蔵書点検等のため

★貸出冊数 8冊 (7月8日〈木〉より)

今年の夏休みは、なが～い夏休み。そこで貸出冊数も、ど～んと増やして8冊としました。とっぴりと読書三昧の生活に浸ってみてください。

見つけよう、心に残る一冊を！



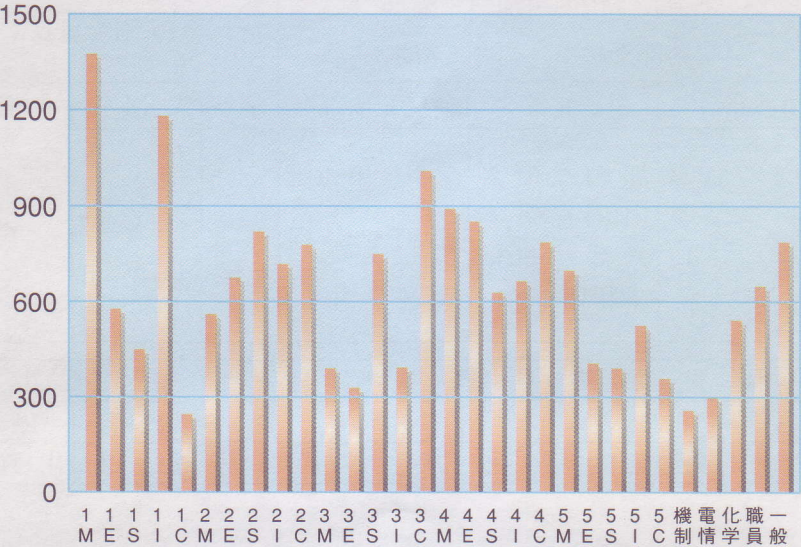
平成10年度 図書館利用状況

◇開館日数	270日
平日	232
土曜日	38
◇図書館入館者数	117,424人
平日	109,336
土曜日	8,088
◇一日平均入館者数	
平日	471
土曜日	213
◇図書貸出延人数	11,507人
学生	10,706
教職員	415
一般	386
◇図書貸出冊数	18,965冊
学生	17,531
教職員	647
一般	787

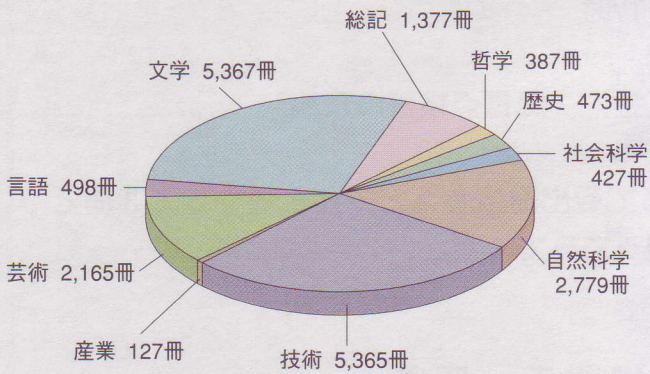


貸出冊数

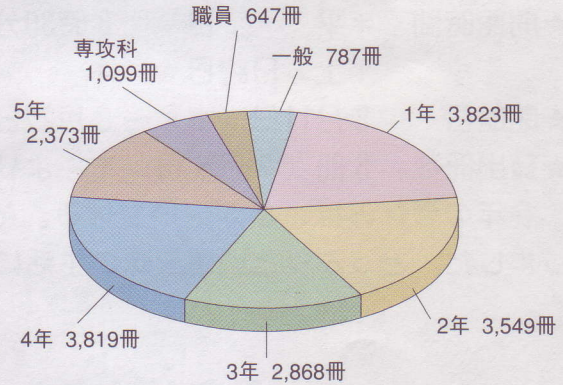
クラス別統計表



○分類番号別統計表 (合計冊数18,965冊)



○学年別統計表 (合計冊数18,965冊)



編集後記

新館長の巻頭言をはじめに、事務部長および新任教官4名に執筆して頂きました。恒例の本年3月に本科を巣立った各科からの卒業のメッセージ、9回目を迎える“心に残る一冊の本”、12回目となったブックハンティング、それぞれにご多忙の折、原稿依頼を快く引き受けて頂き、心よりお礼を申し上げますとともに、今後のご活躍をお祈り申し上げます。(図書館委員一同)